

◆交流のきっかけ◆

昭和62年(1987年)、ロシア(当時はソビエト連邦)と野鳥の共同研究を展開していた帯広畜産大学の藤巻裕蔵教授が日ソ鳥類保護シンポジウムに出席されたおりに、ハバロフスク市「ピオネールの家(注1)」野鳥観察グループから日本の少年野鳥観察グループとの共同研究の提案を受けた。しかし帯広市内にそういったグループがなかったため、(財)日本野鳥の会事務局を通じて、武蔵野市の自然クラブ野鳥教室(注2)に打診があり、文通が始まった。以来、武蔵野市とハバロフスク市の青少年がお互いの地を訪問して交流を育み、平成4年(1992年)には青少年相互交流協定を締結。平成6年(1994年)以降は、武蔵野市の青少年の派遣、ハバロフスク市の青少年の受入を隔年の事業として行っている。

◆交流実績◆

年 月	回 員	内 容
1987 ～ (昭和62年)	-	武蔵野市野鳥教室の子供達とハバロフスク市ピオネールの家野鳥観察グループとの文通始まる(武蔵野市より文通第1便)
1988 ～ (昭和63年)		ハバロフスク市より文通第1便(野鳥観察会の様子、共同探鳥の打診) 武蔵野市より文通第2便(野鳥教室キャンプの様子など) ハバロフスク市より文通第2便(野鳥観察会の様子、共同探鳥の打診など)
1989.2 (平成元年)		ハバロフスク市より文通第3便(新年の挨拶)
1989.5 (平成元年)		ハバロフスク市より文通第4便(ハバロフスク地域での共同探鳥の打診など)
1989.10 (平成元年)		ハバロフスク市より文通第5便(極東地域及び日本での共同探鳥の申し出など)
1989.12 (平成元年)		武蔵野市より文通第3便(共同探鳥の慎重な検討、観察野鳥リストなど)
1990.10 (平成2年)		ハバロフスク市より文通第6便(ハバロフスク地域での共同探鳥の実施)
1991.1 (平成3年)		武蔵野市より文通第4便(共同探鳥の検討、具体的な内容・日程など)
1991.2 (平成3年)		武蔵野市より文通第5便(共同探鳥会の実施)
1991.4 (平成3年)		武蔵野市より文通第6便(現地調査の打診、武蔵野市の計画の提案)
1991.5 (平成3年)		青少年野鳥交流団派遣に伴う事前調査
1991.8 (平成3年)		武蔵野市青少年野鳥交流使節団派遣(第1回派遣)
1992.7 (平成4年)		武蔵野市長ハバロフスク訪問、武蔵野市とハバロフスク市、青少年交流協定締結
1992.8 (平成4年)	11	ハバロフスク市ピオネールの家野鳥観察グループ、武蔵野市へ(第1回受入)
1993.1 (平成5年)		TAMARAいふ21(注)ハバロフスク自然探検隊派遣のための調査団派遣
1993.7～8(平成5年)	100	ハバロフスク自然探検隊(TAMARAいふ21事業)、ハバロフスク市及びその周辺へ(第2回派遣)
1993.10 (平成5年)		日・ロ渡り鳥会議(TAMARAいふ21事業)
1994.6～7(平成6年)		市民自然交流視察団(12名)、市議会議員団、ハバロフスク市及びその周辺へ
1994.8 (平成6年)	17	ハバロフスク市青少年交流団受入(第2回受入)
1995.8 (平成7年)	26	ハバロフスク自然交流使節団派遣(第3回派遣)
1996.7 (平成8年)		ハバロフスク市自然観察センター候補地視察団派遣(土屋市長ハバロフスク訪問)
1996.8 (平成8年)		ハバロフスク市長フィリポフ氏武蔵野市訪問
1996.8 (平成8年)	10	ハバロフスク市青少年交流団受入(第3回受入)
1997.7 (平成9年)	25	ハバロフスク自然交流使節団派遣(第4回派遣)
1997.12 (平成9年)		武蔵野市市制50周年記念事業「森と鳥のサミット」(シェフチェンコ副市長武蔵野市訪問)
1998 ～ (平成10年)		ハバロフスク市市制140周年
1998.8 (平成10年)	12	ハバロフスク市青少年交流団受入(第4回受入)
1999.8 (平成11年)	17	ハバロフスク自然交流使節団派遣(第5回派遣)
2000.8 (平成12年)	10	ハバロフスク市青少年交流団受入(第5回受入)
2001.6 (平成13年)		ハバロフスク市・武蔵野市交流10周年記念行事(物産展他)、ハバロフスク副市長、武蔵野市を訪問
2001.7 (平成13年)		交流10周年記念事業 武蔵野市民自然交流団派遣
2001.8 (平成13年)	20	ハバロフスク自然交流使節団派遣(第6回派遣)
2002.3 (平成14年)		市長及び市議会議員ハバロフスク公式訪問先遣隊派遣
2002.4 (平成14年)		市長及び市議会議員団(9名)、ハバロフスク市へ、青少年相互交流協定及び森林に関する寄付講座開設のための協定締結
2002.8 (平成14年)	10	ハバロフスク市青少年交流団受入(第6回受入)
2002.9 (平成14年)		ハバロフスク市長公式訪問団(市長及び森林講座関係者5名)招聘
2002.9 (平成14年)		森林保護講座開設 於ハバロフスク工科大学(第1回)
2003.5～6(平成15年)	3	ハバロフスク市市制145周年記念式典使節団、ハバロフスク市へ派遣(助役、子ども家庭部長、通訳)
2003.8 (平成15年)	15	ハバロフスク自然交流使節団派遣(第7回派遣)
2003.7～8(平成15年)		100人の冒険から10周年記念事業
2003.9～(平成15年)		森林保護講座開設 於ハバロフスク工科大学(第2回)
2004.8 (平成16年)	10	ハバロフスク市青少年交流団(第7回受入)
2004.9～(平成16年)		森林保護講座開設 於ハバロフスク工科大学(第3回)
2005.8 (平成17年)	20	ハバロフスク自然交流使節団(第8回派遣)
2006.3 (平成18年)		武蔵野市・ハバロフスク市交流記念講演会
2006.8 (平成18年)	10	ハバロフスク市青少年交流団(第8回受入)
2007.8 (平成19年)	19	ハバロフスク自然交流使節団(第9回派遣)
2008.5～6(平成20年)	3	ハバロフスク市市制150周年記念式典使節団、ハバロフスク市へ派遣(市長、児童青少年課長、通訳)
2008.8 (平成20年)	12	ハバロフスク市青少年交流団(第9回受入)
2009.8 (平成21年)		ハバロフスク自然交流使節団派遣(新型コロナウイルスの影響により中止)
2009.8 (平成21年)		ハバロフスク市長他関係者、武蔵野市を訪問(5名)
2010.8 (平成22年)	20	ハバロフスク自然交流使節団(第10回派遣)
2011.8 (平成23年)	12	ハバロフスク市青少年交流団(第10回受入)
2012.8 (平成24年)	20	ハバロフスク自然交流使節団(第11回派遣)、交流20周年記念植樹
2013.5～6(平成25年)	4	ハバロフスク市市制155周年記念式典使節団、ハバロフスク市へ派遣(副市長、子ども家庭部長、秘書広報課主査、通訳)
2013.8 (平成25年)	12	ハバロフスク市青少年交流団(第11回受入)
2014.8 (平成26年)	20	ハバロフスク自然交流使節団(第12回派遣)
2015.8 (平成27年)	12	ハバロフスク市青少年交流団(第12回受入)
2015.8 (平成27年)		ハバロフスク市長、市議会議長、武蔵野市を訪問
2016.8 (平成28年)	19	ハバロフスク自然交流使節団(第13回派遣)
2017.8 (平成29年)	12	ハバロフスク市青少年交流団(第13回受入)
2018.5 (平成30年)	3	ハバロフスク市市制160周年記念式典使節団、ハバロフスク市へ派遣(市長、児童青少年課長、通訳)
2018.8 (平成30年)	19	ハバロフスク自然交流使節団(第14回派遣)
2019.8 (令和元年)	12	ハバロフスク市青少年交流団(第14回受入)
2020.8 (令和2年)		ハバロフスク自然交流使節団(新型コロナウイルス感染症拡大の影響により派遣を中止)
2021.4 (令和3年)	※9	ハバロフスク市とのオンライン交流会(※武蔵野市側青少年9名、ハバロフスク市側青少年10名参加)

(注)TAMARAいふ21とは—

多摩地域が神奈川県から当時の東京府に移管されて100年目の年(1993年)に、この節目の年を、新たな100年のまちづくりへ向けての門出の年とするため、多摩の広範な人々や団体の参加を受けて、365万人のまちづくり運動として「多摩東京移管百周年記念事業—TAMARAいふ21—」が多摩の全域で開催された。